

リレーリ  
橋友録

983

私の土木・橋梁との出会いは、1988年に群馬県立中の条高等学校農業土木科（現・吾妻中央高等学校環境工学科）へ入学からでした。中之条高校では、毎週のように実施される測量実習や測量士の受験対策、三角測量の県大会等と、渠く土木の基礎を学ばせて頂きました。

1991年に国家公務員となり、東京工業大学土木工学科に文部技官として採用されました。その年は、3人の新人文部技官が配属されたのです

が、一番成績の悪い私の配属先は、土木工学科で一番若い教授の三木千壽先生（現・東京都市大学学長）の下となつたと、後にご本人より伺いました。東京工業大学では、助手として従事されていた館石和雄先生（現・名古屋大学教授）や、学生として在籍しておられた穴見健吾先生（現・芝浦工業大学教授）を始めとした皆様のご指導の元、学生実験の準備や先生方の資料作りのお手伝い等に従事しながら、3連ジヤックを用いた大型疲労

A black and white portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie. The image is cropped into an oval shape.

高速  
強  
補

## 海峡部長大橋を含む最短一c間

国担当です。  
瀬戸中央道は1978年10月に工事着工し、88年4月に完成、昨年、供

ト) あり、坂出管理センターではそのうち41橋を管理しています。

ています。もちろん、この時代に私を助けて下さいました皆様との繋がりが最大の財産であることは言うまでもありません。  
・大学卒業後、1995年から2005年までを川田建設、川田工業にて從事し、多くの経験を積ませていただきました。特に、橋梁の補修工事現を同じくする旧知の方々と、一緒に事業を運営していく中で、技術的な面だけでなく、人間関係や組織運営など、多方面で学び、成長する機会がありました。その後、2011年度まで東京工業大学発のベンチャーテクノロジーにお世話になり、小さい組織ならではの営業や実務に従事させていただきました。

の連携を活用して新材料や計測・解析・施工方法の技術開発を行っております。昨年より、取り組んできた技術が成果として出はじめ、技術の展開やビジネスプランを計画しているところです。設立から8年が経過し、業務の質・量ともに少しづつ充実してまいり

やKnowledgeです。社名に恥じない技術者としてこれからも安心・安全を提供できる様に精進してまいりうと想います。

次回は、共同研究や琉球大学での耐候性研究会で、公私ともにお世話になつておられます川田工業の長坂康史さんにお願いしたいと思います。

メンテナンスで安心・安全を

MKエンジニアリング株式会社

取締役 竹渕 敏郎

ご配慮いただき、夜間大  
学（中央大学土木工学科）書の作成から始まり、足  
場の仮設、補強部材の手  
配から施工管理まで、一  
連の現場作業を経験させ  
て頂きました。

また、設計業務ではR  
C橋脚の耐震設計補助か  
ら高速道路付属物の設

と、橋梁のメンテナンスを専門とするコンサルタントとして、MKエンジニアリングを設立し、現在に至っております。弊社は【インフラにプラス】100年の安心と安全を】を旗印として、橋梁や構造物の調査・点検、

ました。昨年、会社設立時の基調講演でお世話になつた、Lehigh大学のJ.W.Fisher先生への近況報告と、海外のメンテナンス事情の視察を兼ねて三木千壽先生達と渡米してまいりました。初めてのアメリカに目を回しつつ、世界中の暮れに